

航空のイメージが利用意向に与える影響に関する一考察

金沢大学 理工学域環境デザイン学類 学生会員 ○早水 彦
金沢大学 理工研究域環境デザイン学系 正会員 藤生 慎
金沢大学 理工研究域環境デザイン学系 フェロー 高山 純一

1. 研究の背景と目的

2022 年度末、北陸新幹線が福井県に延伸することが決定したことにより、小松空港の羽田路線は減便・撤退の危機にさらされる可能性がある。新幹線延伸により激化することが予想される北陸新幹線と小松―羽田路線の競合において、北陸―首都圏間の交通機関選択肢確保のためにも、小松―羽田路線が減便・撤退せず存続することは重要である。小松―羽田路線の路線存続において需要新規開拓は必要不可欠であり、その新規需要開拓をする上で重要なのは福井県である¹⁾。福井県には福井空港があるものの定期便が就航していないため、福井県―小松空港間のアクセスに関しては、福井方面から小松空港へ北陸道で移動する際に利用できる安宅スマート IC などの小松空港へのアクセスの利便性向上が図られている。小松空港における福井県民利用率促進が試みられている中で、小松―羽田便における福井県民の利用率は約 10%と低い²⁾。そこで、本研究では、福井県民を対象としたアンケート調査を実施し、航空利用率の低い福井県民はどのような航空イメージを抱いているのかを把握し、小松―羽田便の利用経験回数によって航空に対するイメージと航空・新幹線の利用意向について明らかにすることを目的とした。

2. 既往研究

航空に関するイメージ、また小松―羽田路線の市場分析に関しては以下のような研究が行われている。
高田³⁾は、航空サービスの評価に影響している可能性がある、機材の運行特性に関するイメージに着目し、機材サイズの異なる 3 種類の機材に対するイメージを、因子分析を用いてマッピングした。河本ら⁴⁾は、小松―羽田路線に着目し、航空利用者を被験者としてアンケート調査を実施し、調査結果から基礎的な交通機関選択モデルの構築を行った。上記に述べたような研究は存在するが、航空利用率が低い地域における、移動手段としての航空に対するイメージを明らかにした研究は見当たらない。

3. アンケート調査の概要

福井県民を対象としたアンケート調査を小松空港と福井駅の 2 箇所の配布場所にて実施した。小松空港の配布日程は 2017 年 9 月の計 11 日間、福井駅での配布日程は同年 10 月の計 9 日間である。各配布場所における配布数、回収数、回収率を表-1 に示す。

表-1 アンケート配布場所ごとの配布数・回収数・回収率

	小松空港	福井駅
配布数	2579枚	2188枚
回収数	304枚 ※回収中	339枚 ※回収中
回収率	11.8%	15.5%

4. 分析結果

本研究は、航空利用率の低い福井県民の航空イメージを明らかにするため、福井駅で配布したアンケート調査票のデータを用いて分析を行う。「これまでの小松―羽田便の利用回数」の集計結果を図-1 に示す。航空利用率の低い福井県でも、一度は小松―羽田便を利用したことがある割合は 85%と高いことが分かった。また「航空イメージ」を項目ごとに 5 段階評価を行った質問に対する集計結果を図-2 に示す。航空イメー

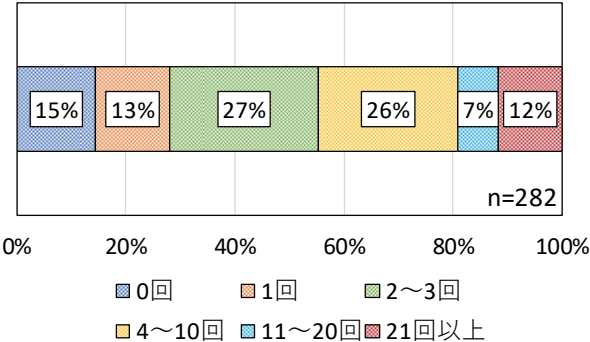


図-1 小松―羽田便利用回数

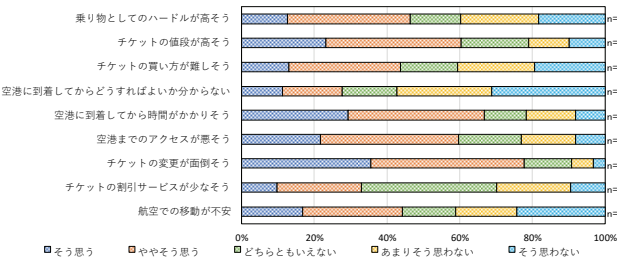


図-2 航空イメージ

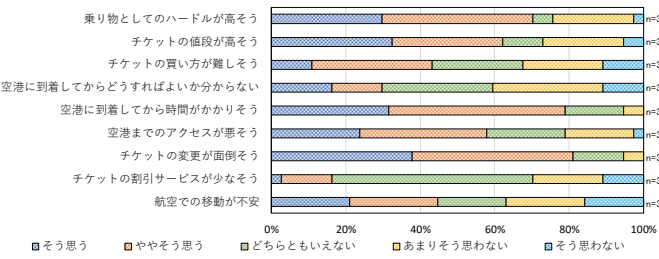


図-3 利用回数0回×航空イメージ

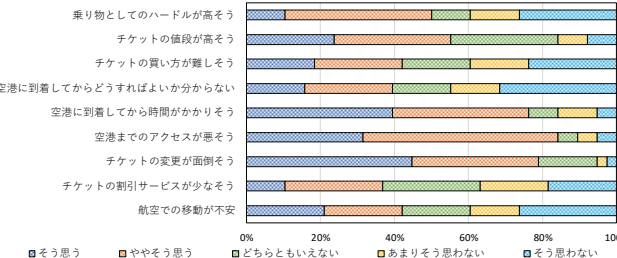


図-4 利用回数1回×航空イメージ

表-2 「0回」,「1回」各項目の検定結果

	統計量	両側P値	*: 5%有意 **: 1%有意
乗り物としてのハードルが高そう	1.7915	0.0732	
チケットの値段が高そう	0.6066	0.5441	
チケットの買い方が難しそう	0.0996	0.9206	
空港に到着してからどうすればよいかわからない	-0.8865	0.3754	
空港に到着してから時間がかりそう	0.2753	0.7831	
空港までのアクセスが悪そう	-2.5293	0.0114	*
チケットの変更が面倒そう	0.2310	0.8173	
チケットの割引サービスが少なそう	-2.0195	0.0434	*
航空での移動が不安	0.2314	0.8170	

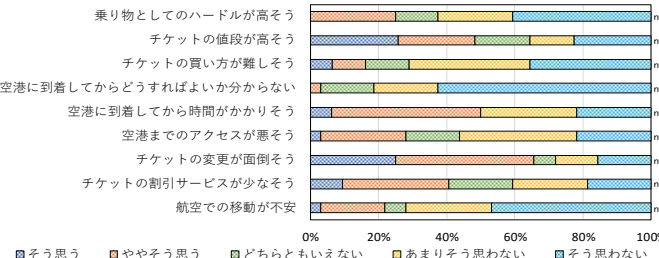


図-5 利用回数21回以上×航空イメージ

表-3 「0回」,「21回以上」各項目の検定結果

	統計量	両側P値	*: 5%有意 **: 1%有意
乗り物としてのハードルが高そう	3.7509	$P < 0.001$	**
チケットの値段が高そう	1.1394	0.2545	
チケットの買い方が難しそう	2.4103	0.0159	*
空港に到着してからどうすればよいかわからない	2.9076	0.0036	**
空港に到着してから時間がかりそう	2.5418	0.0110	*
空港までのアクセスが悪そう	2.4979	0.0125	*
チケットの変更が面倒そう	1.4581	0.1448	
チケットの割引サービスが少なそう	-2.2635	0.0236	*
航空での移動が不安	2.0074	0.0447	*

ジに関しては出題形式の都合上、「そう思う」、「ややそう思う」を回答するとネガティブな航空イメージを持っている回答となる。さらに、利用回数が「0回」、「1回」、「21回以上」と回答している、それぞれのサンプルと航空イメージをクロス集計することで、利用回数が及ぼす航空イメージへの影響を明らかにする。クロス集計を行った結果を、それぞれ図-3～図-5に示す。「そう思う」、「ややそう思う」というネガティブなイメージを持つと回答した割合に着目して図-3～図-5を見ると、利用回数が多い人ほど「チケットの割引サービスが少なそう」の項目ではネガティブイメージが強くなるなど、利用回数より各項目にネガティブイメージの差異が見られた。また、利用回数「0回」と「1回」、「0回」と「21回以上」の組み合わせで、各イメージ項目を「そう思う」、「ややそう思う」の回答割合を対象とした母比率の差の検定を行った。その結果を、それぞれ表-2、表-3に示す。表-3から「0回」と「21回以上」の航空イメージ間には「チケットの値段が高そう」、「チケットの割引サービスが少なそう」の二項目以外の全ての項目で有意差が認められ、「0回」と「1回」の時より多くの項目で有意差が認められた。よって、小松羽田便利用回数の増加に伴い、有意差が認められる航空イメージ項目も増えることが統計的に明らかになった。

5. まとめと今後の課題

今回の分析から、福井駅を利用している福井県民の航空へのネガティブイメージは、小松一羽田便の利用回数に影響され、減少・増加することが明らかとなった。今後は航空イメージが航空の利用意向にどのように作用するのかを分析し、小松一羽田便を利用する機会を設けることで福井県民の航空利用率が増加するのか検証を行う。

参考文献

1) 北國新聞「福井県の需要開拓さらに」 2017年4月21日付朝刊, 2(H2R)
2) 北國新聞「小松空港 福井の利用2割増」 2017年5月27日付朝刊, 2(H2R)
3) 高田和幸: 機材属性と機材イメージを考慮した航空サービス選択行動分析, 土木計画学研究・論文集, 2006.
4) 河本 麻実, 藤生 慎, 高山 純一, 中山 晶一郎: 北陸新幹線開業後における交通市場分析 ～北陸・首都圏を対象として～, 土木計画学研究・講演集, Vol. 53(CDROM), 2016